新春インタビュー　与世田兼稔副知事

○玉井理事　あけましておめでとうございます。新春をかざって与世田兼稔副知事インタビューをいたします。副知事就任後問題山積の県行政に関わっての率直なご意見をお聞かせ下さい。

○与世田副知事　もともと私は弁護士です。個別の紛争や相談を処理してきましたが、行政のダイナミックさや大きな動きについてビックリさせられると同時に良い経験をさせてもらっている感じです。

○玉井理事　昨年はオスプレイの問題等様々ありましたが、やはりかなり苦労されたのでしょうか。

○与世田副知事　沖縄県の基地問題は根の深い解決が困難な政治的問題があります。沖縄県には保革という二つの流れがあって、その中で知事は自己の政治姿勢や公約に基づいて対処されています。副知事は基本的に知事の政策を補佐する役割ですから個人的意見はないわけです。基本的に知事が考えられている政策スタンスを理解して、その枠の中できちんとしたお答えをせざるを得ないとの意味では突然のインタビューを受けた場合でも、知事はどういう風に答えるだろうと考えながらやっています。ですからそこは弁護士的な言い方でいいますと自分の意見で自由な発言が許される立場と、副知事とはまるで勝手が違うんです。そのような意味での苦労は多いです。

○玉井理事　自分の考えと行政の考えと整合性がとれていればいいんですが、ちょっと自分のニュアンスと違う所をお話しないといけないとか、そういう時、葛藤等はありますか。

○与世田副知事　いいえ、私の基地問題に関する認識、政治スタンスに関しては知事と基本的に同じです。日米安全保障条約の評価、普天間基地の一日も早い危険性の除去、移設返還という所は全く同一です。ですが、実際のインタビューの時に強い口調で表現するかそれともソフトな表現にするか、微妙な感じがなかなか難しいところです。テレビ等で知事のインタビューの答えを見ているのですが、知事はやはり上

手です。私なりに知事なら多分こういう時にはこうおっしゃるのだろうと頭の中で考えながら対応していますが、仲井眞県政の副知事として枠を外さない対応を心がけています。

○玉井理事　なるほど、とても勉強になります。次に業務の縦割り行政をよく批判されるところですが、そのあたりはどういうご感想をお持ちですか。

○与世田副知事　確かにそれは率直にいってありますね。私が一番最初にぶつかったのもそういう様な事でした。時間が経ったので問題はないかなと思いますが、東北の震災があった時に沖縄県として福島県とか被災された子ども達を迎え入れようというような議論が出てきた時がありました。

沖縄県に対して、あるボランティア団体から福島県の子ども達を送りたいので受け入れてくれるかという要請が来ました。被災児童の受け入れの問題ですので担当部局が、教育庁の所管になりますが、ここには予算が無い。しかし、被災者児童に対する支援という観点からみますとどうにかしなければならない。ですからそれをどのように予算を組み替えするのかに関してどこの部局が予算を持っているかで進まないんです。最終的には文化観光スポーツ部の予算を使い、結果としては喜ばれる事業になりましたが、この辺の意思疎通がうまくいかないと、もうダメということで担当部局が、すぐに諦めるところは残念だなと思いました。沖縄県は津波で大変な方々の家族や子ども達に対する支援もやりましょう、そして学校としても受け入れ、防災として避難対策も色々やっており、ものすごい有意義な事業であるという事が縦割り行政の壁でストップしそうになったものですから、私なりに努力してどうにか事業実施ができました。私からすると縦割り行政のもどかしさを痛感し、今はどういう形で予算がつくのかルールが分かってきました。誰がまず事業を担ぐか、担ぐにあたっての目的事業それから予算ということですから結論ありきではないんですよね。やるという事だけでここに至るプロセスというのを今漸く分かってきましたから、副知事就任直後は役所って、なんて融通のきかないところだろうというのが率直な感想でした。

○玉井理事　いろんな力が結集していい仕事ができそうですけれども、それがなかなかうまくできないというのがもどかしいところですね。

○与世田副知事　そうですね。ただ、例えば副知事としていくつか所管としているところをまたぐのであれば担当として采配できますが、所管として違うところに行くとまた難しいですね。副知事間調整をしないといけなくなります。

○玉井理事　県医師会との関わりが深かった与世田先生が副知事に就任され、医師会会員も非常に喜んでおります。県行政の中心にいらっしゃって沖縄県の医療行政の現状はどの様な状況になっているとお考えでしょうか。

○与世田副知事　医療行政に関しましては沖縄県の職員、仲井眞後援会の宮城会長、玉城政策参与もおられますから比較的風通しは良く、医師会のニーズを汲み取るような形でできるだけ政策として反映できるようになっているんじゃないかと思います。ただ、今は個別具体的な案として何があるかとは言えません。政策参与からの色々な案件も一緒になって考えながら重粒子線も含めて医療と観光、医療ツーリズムと色々と議論はしており、即効的にはどうとは言えませんが、おそらく玉城政策参与が入って6年目ぐらいだと思いますので、県医師会から沖縄県にあがる情報というのはちゃんと政策課題に入っています。そして芽をだし、やがて結実していくんじゃないですか。治験ビジネスや医療のさまざまな特区の案件やデジタル化、離島医療圏とか色々議論はしています。私の感想ですが、玉城政策参与を中心として医師会から沖縄県に求めるテーマというのでしょうか、こう

あるべきだというプランを提言して、それに向けて行政と医師会でタッグを組んで実現していくというアプローチも必要なのではと思います。

離島医療問題では医師確保の問題がありますね。八重山病院で産婦人科医、宮古病院では内科医が不足した、こういうような事をどういう風な形で確保するか、どう離島医療が守れるのかという事を医師会、特に地域の医師会が支えてくれないともたないと思います。私は福祉の担当で離島に行きますが、宮古地区医師会は比較的県立病院とうまくいっていますが、八重山病院はまだまだの感じがしました。

○玉城政策参与　八重山地区医師会は法人化してまだ期間が短いので歴史が浅く、皆をまとめるタイミングが少し遅くなっていると思います。今からだと思います。

○与世田副知事　そうですね、県立八重山病院の施設問題にしても規模、場所その他の問題で八重山の医師会の先生方と県立病院の先生方とで連携が必要ですね。

○玉城政策参与　今、与世田副知事の方から提案があれば八重山地区の医師会だけで難しければ県医師会が一緒になって全体をまとめる事もできます。問題点や行政から協議依頼がありましたら県医師会からも参加致します。各々の地域がしっかりしていくと全体としてもうまくいくと思いますので。

○与世田副知事　特に北部圏域の県立北部病院と医師会立病院は一体どうするのかとか、本当は医師会を含めてあり方としてきちんと議論しないといけない問題もありますね。

○玉城政策参与　現在、北部広域市町村事務組合が両病院と宮里北部福祉保健所長、県医師会からも事務をひとりアドバイザーとして派遣して月に２～３回議論をしています。ですから北部の市町村事務組合が中心となって準備段階がスタートして北部は良い方向にいくと思っております。

○与世田副知事　そういった事を含めて行政と議論する場が意外と少ないですね。一度県医師会と当事者の北部の先生も含めて北部地区医師会の医療はどのようにあるべきかを議論した方がいいですね。

○玉城政策参与　数ヶ月たったばかりです。もう少ししたら正式な準備委員会もできています。今は保健所が中心となっていますが、福祉保健部にも入っていただいて県の中枢としての考えもどうするかということで、一緒にやっていかないといけないと思います。

○与世田副知事　私は県立病院長の先生と親交を暖める機会がありますが、その中でよく聞いたりします。各先生方そう思っているんですよ。院長先生レベルの問題意識と方向性は私達も聞いています。北部地域の住民にとってもすごくいい形でよい医療が提供できるような体制がつくられればよいと希望します。

○玉井理事　色々なプランがあるようですね。次に、今保健医療計画の策定中だと思いますが、保健医療計画で議論が色々ある中で、病床数の問題とか色々でていると思いますが、医師会に何か注文をしておきたい事とかありますか。

○与世田副知事　デリケートな問題でなかなか副知事としては答えずらいところです。地域医療計画としては現場現場で考えてやる事であってなかなか私どもが出すぎた発言はなかなか難しいですね。医療とベットの問題は医療費の抑制という議論があって、なかなか１つの答えがでないようなデリケートな問題ですね。

○玉城政策参与　ベッド数の問題は入口の救急から出口の在宅医療まで一環して考えなければいけません。その連携を今度こそやらないとまた次の保健医療計画の時に同じことがむし返されます。沖縄県民は病院に行って最後は自立してまた自宅に帰れるようなシステムをどのように作れるか、おそらく県医師会と行政と地区医師会と一緒になって、この地域のエリアでどうするか、この地域で足りないものはなにか、そこを補強する為には行政と民間とどういうタッグを組むことがあるかということを検討すると他のベットがどうこうとする話はなくなるし、それを行政と共にできればと思います。

○玉井理事　医師会からのお話、要望、陳情はかなりうるさい方ですか。

○与世田副知事　それはないですよ。玉城政策参与からそんなに聞いた事ないですからね。

○玉城政策参与　与世田副知事とは沖縄県を豊かにするような話はしますけれどね。例えば医療クラウド構想とかですね。

○与世田副知事　電子カルテにおいても各病院バラバラですよね、今八重山病院で導入しようとしているのと宮古で導入しているのは違います。調達のコストで考えても、あるいはソフトの開発で考えても不本意だなと思っても進んでいるのを止める訳にはいかねいんですよね。だからこれからは、私は政策参与とも協力して、やはり健康情報を全部で管理しながら医療費の最終的な抑制にも無駄な薬の抑制にもまた、なおかつ副作用の問題もやがて解決できるシステムというのが構築できるのではないかと思っております。

○玉井理事　既存する様々なシステムが既にあるものですから、それぞれのテリトリー意識がありましてなかなか調和ができないですよね。

○与世田副知事　今後、システム統合をどう構築するかですね。那覇市医師会の健診データが実験的に委託事業で進んでいるそうですから、こういったものがもう少し実になってくれたらステップバイステップで前進し大変いい事ではないかと思います。

○玉井理事　特定健診等をやると、健診を受けた方が私は病院で健診を受けたのになぜ行政から指摘を受けないといけないのかと憤概される方がいらっしゃるようです。皆さんの健康というのは医者だけ又は病院だけで守れるものではないし、統合してやっていかないといけない時代になっているんだと県民に理解してもらうというのも大切だと思います。

○与世田副知事　私は、東北の震災後、防災危機担当副知事として東北に視察に行ってきました。東北大学の病院で震災対応のレクチャーを受けました。何が一番大切かと言うと投薬データが知りたいとの事でした、ある病院が津波でデータが全部無くなったそうです。そういう

事を考えるとバックデータの管理システムの構築をしなければいけないと思いました。しかし、ただ医療情報を集めればいいという訳でもなく最低限どんな情報が統合されていくのか選択しないといけない。東北大学は、今これを踏まえてデータを作っているとお伺いいたしました。沖縄県も今後考えていかないといけませんね。

○玉井理事　私も岩手に10日間行きましたが、投薬履歴を持っていたのが薬局でした、薬局がハードディスクを持って避難していました。それが現地の被災者の医療を救いました、そういうところを見るとデータの保存は災害医療に関しましては大きなキーになると思います。だからクラウド化にしてすぐに提供できるような医療情報をどちらかで蓄積されていると大災害があった時に災害に強い社会の基盤になるんじゃないかと思います。

○与世田副知事　病診連携と言われて久しいわけですけれども、まあ沖縄県は他府県に比べて県立病院が多いのですが、時代の流れをみますと県立病院の時代ではなくて民間における病院と個々の診療所の連携で医療が成り立っていくのだろうと思います。救急と在宅と慢性期というような分け方をしているわけですから。そういう流れの中でやはり医師会が今、問われている問題にしても積極的に取り組んで、例えば県立病院のあり方を含めてリーダー的な役割でこうすべきだと言っていただければ我々も地区医師会と一緒にしていきたいですね。

○玉井理事　次に何かこだわりの健康法があれば教えてください。

○与世田副知事　かつてはゴルフでしたが最近は、土日も公的な仕事が入っている為ゴルフができないんですよね、今はできるだけ熟睡するように努めています。

○玉井理事　よく休めていますか？

○与世田副知事　眠れてないので眠りたいです。

○玉井理事　「よく眠れていますか」は沖縄県では特に自殺の問題が非常に大きいので外来で聞きます。

メンタルヘルスはとても大切な課題です。都道府県別で平均寿命が今度発表されますが、悪くなるんじゃないかと聞かされています。健康長寿復活の為に色々と協力させて頂きたいと思います。

○与世田副知事　沖縄県の21世紀ビジョンで沖縄のブランドはやはり健康長寿なんです。このブランドイメージが相当落ちてきている。これをどうやって復活させるか私どもの政策課題にしております。その中でメタボを含めた生活習慣病対策ですが、それも一つの柱ではあるんですけれども、若年者の死亡率が高い。メンタルケアこの辺を含めた対策として県医師会の深い知識で沖縄県の健康長寿のブランドを回復するためにどうしたらいいのか、そういった政策提言をはっきり出していただいて一緒になって考えたいですね。

○玉城政策参与　この間乳がん検診学会を開催した時に、受診率を上げようとしても上がらないという話がありました。結局そういう問題じゃなくて言い続ける事も大事ですが、子ども達の教育、つまり教育行政の健康の問題と大人の健康がバラバラですよね。小児の生活習慣病

の言葉があって、そこから始まり合体すると子ども達が健診の大切さや健康診断で自分の体力その他の大切さを知ると、良くなると思います。長野県も30年以上やっております。沖縄県もそういう教育から進めて10年後には10歳の子供が20歳になって、20年後には30歳になる。そういった長い時間で考えないと最終的にはよくならない気がします。鹿児島県では乳がん健診の話を中学生・高校生に一生懸命指導しているという話をしていました。これが10年20年と保健教育の中に入っていくと意識が変わっていくし、たばこもそれで意識が変わっていくと思います。

○与世田副知事　教育という場面の切り口で一緒になって子育て教育をしていく。人材育成は沖縄県の一番の課題ですから、そこを健全な精神で健康ありきの世界という事で重要な役割を医師会の方々と沖縄県の未来像をきちんと作っていければと思います。

○玉井理事　心身すこやかな子供たちが育っていくといいですね。

○与世田副知事　そうしないとなかなか長寿日本一を取り戻すにはハードルがどんどん高くなっていきますからね。

○玉井理事　ありがとうございました。それでは最後に座右の銘を教えて頂けますか？

○与世田副知事　「継続は力なり」「念ずれば通ず」ある程度目的意識を持って一つずつ努力をすれば、やがてそれが実になります。最初は勉強嫌いだったけれど、ある日突然に好きになるわけではないですが、目標を持ったら努力できるんです。継続できるんです。ですから学校教育の中で一番重要なのは目標設定教育じゃないかと思います。

○玉井理事　本日はご多忙の中、誠に有りがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。